

(令和5年度結核対策推進協議会資料)

群馬県結核予防計画の進捗管理 (現状と課題)

目 次

結核予防計画目標	1
1 総合目標	
(1) 結核罹患率	2
(2) 保健所別結核罹患率・患者数	3
2 事業指標	
(1) 全結核患者に対する DOTS 実施率	4
(2) 喀痰塗抹陽性肺結核患者のうち治療成功率	4
(3) 喀痰塗抹陽性肺結核初回治療の失敗・脱落率	5
(4) 新登録菌陽性肺結核患者のうち培養等検査結果把握率	5
(5) 新登録菌陽性肺結核患者のうち登録時薬剤耐性検査把握率	6
(6) 前年登録潜在性結核感染症患者のうち治療完了率	6
(7) 80 歳未満の初回治療患者に対する PZA を含む標準治療の実施率	7
(8) 全結核患者の活動不明率	7
(9) 菌陽性患者の分子疫学的検査の実施率	8
(10) BCG 接種率	8
(11) 接触者健康診断の受診率	9
(12) 結核健康診断実施月報の報告率（県保健所）	9
(13) 市町村長が実施する定期健康診断の受診率	10
3 高齢者の結核について	11
4 外国出生者の結核について	12

群馬県結核予防計画 目標

総合目標	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R4年 評価	目標値	国指標	
									R4年		
									(2022年)		
令和4年(2022年)までに本県の実結核罹患率を人口10万対7.0以下にする。	9.3	9.4	8.8	8.0	7.8	6.4	5.9	◎	7.0	10以下	

指標番号	事業指標	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R4年 評価	目標値	国指標	
										R4年		
										(2022年)		
1	全結核患者に対するDOTS実施率	98.3%	96.4%	100.0%	94.7%	83.5%	100.0%	100.0%	◎	維持	95%以上	
2	喀痰塗抹陽性肺結核患者のうち治療成功率	54.4%	76.2%	71.4%	74.4%	64.4%	68.1%	67.7%	△	70%以上	—	
3	喀痰塗抹陽性肺結核初回治療の失敗・脱落率	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	△	1%以下	5%以下	
4	新登録菌陽性肺結核患者のうち培養等検査結果把握率	99.3%	99.3%	100.0%	99.1%	100.0%	98.9%	100.0%	◎	100%	—	
5	新登録塗抹陽性肺結核患者のうち薬剤感受性結果把握率	68.0%	81.4%	83.2%	89.8%	91.1%	96.2%	87.1%	△	95%以上	—	
6	潜在性結核感染症患者のうち治療完了率	82.8%	80.2%	90.1%	86.2%	86.8%	83.6%	91.0%	○	95%以上	85%以上	
7	80歳未満の初回治療患者に対するPZAを含む標準治療の実施率	85.3%	83.0%	82.7%	82.0%	83.3%	78.9%	82.9%	○	90%以上	—	
8	全結核患者の病状不明率	21.2%	16.4%	15.8%	8.4%	12.2%	4.2%	7.4%	△	5%以下	—	
9	菌陽性患者の分子疫学的検査の実施率	67.4%	76.7%	75.6%	87.5%	88.0%	63.2%	85.3%	○	95%以上	—	
10	BCG接種率 [※]	98.4%	98.6%	99.9%	98.7%	100.4%	97.8%	96.4%	◎	維持	95%以上	
11	接触者健康診断の受診率(県保健所)	97.8%	97.4%	98.8%	98.7%	99.8%	100.0%	99.9%	○	100%	100%	
12	結核健康診断実施月報の報告率 [※]	78.1%	71.0%	77.9%	78.6%	80.3%	80.9%	82.5%	○	90%	—	
13	市町村長が実施する定期健康診断の受診率 [※]	32.1%	28.5%	28.7%	28.8%	20.9%	24.7%	24.6%	△	40%	—	

※集計単位：年度

評価の
表示に
ついて

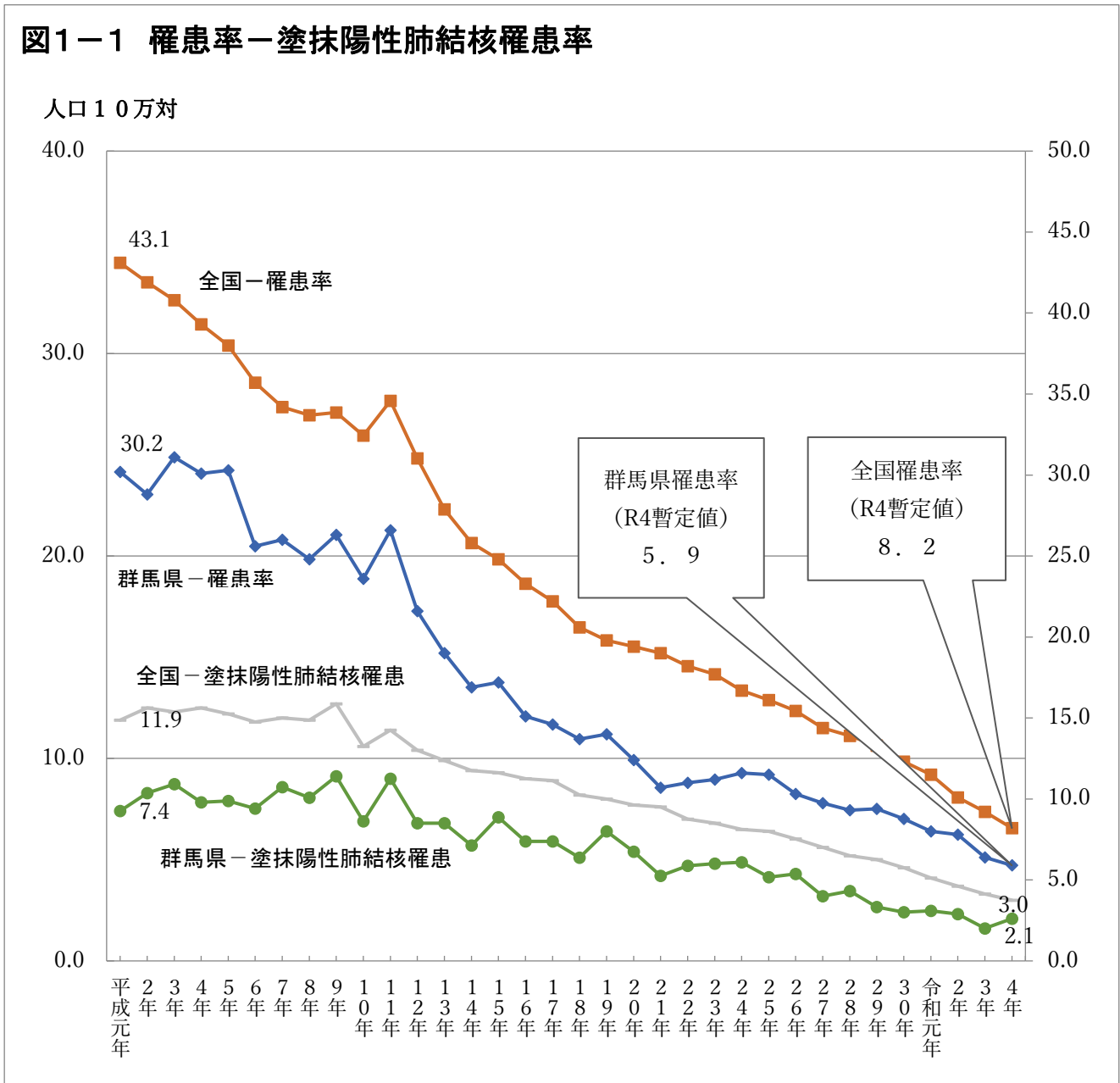
- ◎ 目標値以上
- 目標値以下であるが、改善傾向にある。
- △ 計画策定時の数値より後退している。

1 総合目標 結核罹患率

(1) 図1 罹患率－塗抹陽性肺結核罹患率年次推移

目標値：7.0

図1－1 罹患率－塗抹陽性肺結核罹患率



群馬県の令和4年の結核罹患率（人口10万対）は5.9（暫定値）となり、前年と比べ0.5ポイント減少した。全国の結核罹患率は、令和3年に10以下となり、初めて低まん延化（WHO定義：低まん延とは罹患率人口10万対10以下）を達成し、令和4年に8.2（暫定値）と着実に減少している。

(2) 図2 令和4年結核罹患率（人口10万対）（保健所別）

目標値：7.0

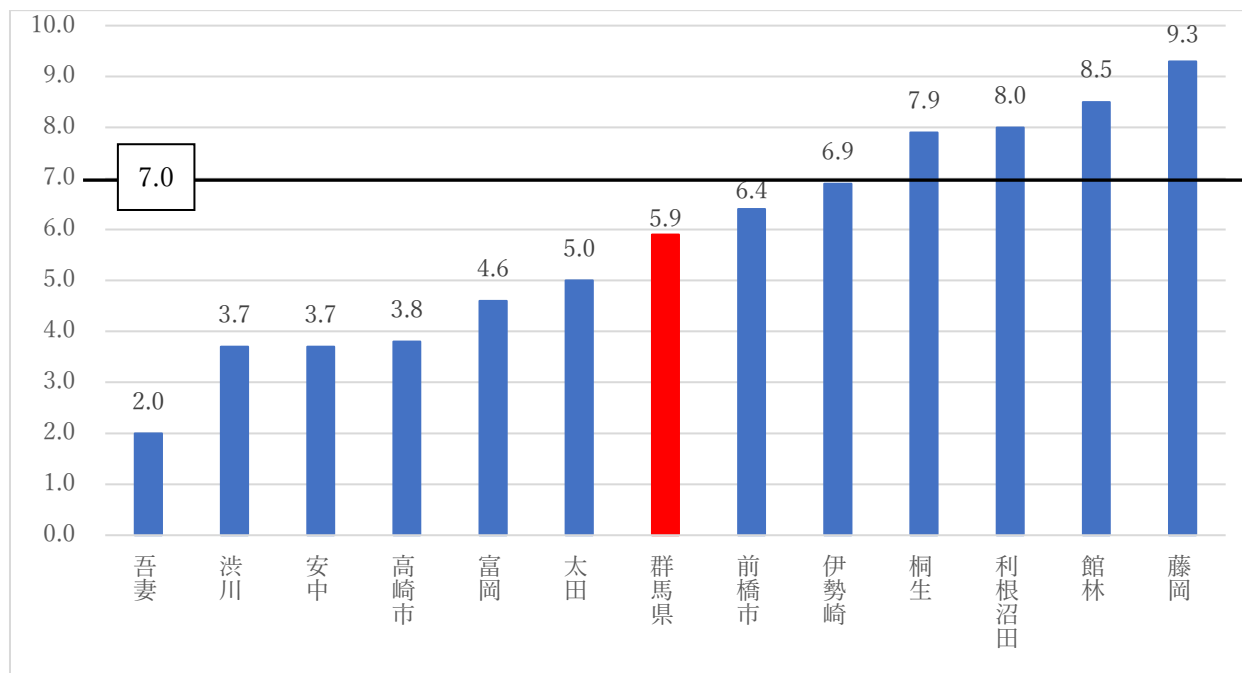


表1 保健所別新登録患者数・罹患率

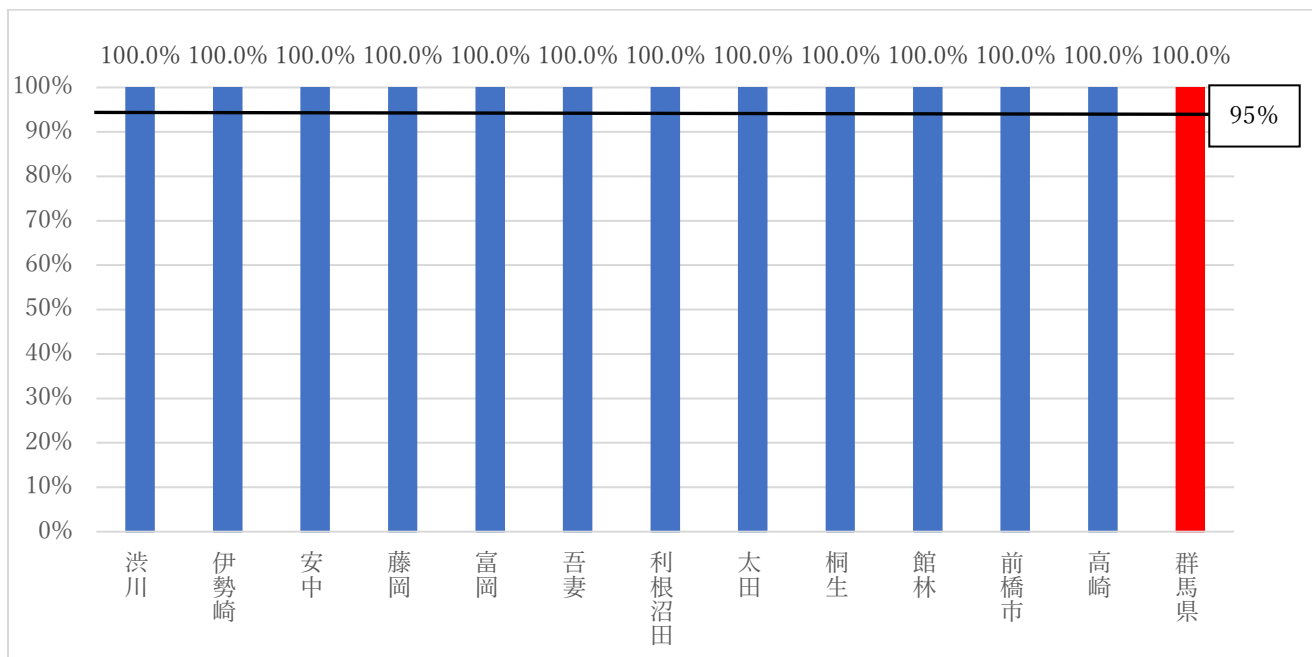
保健所	新登録患者数 (人)	結核罹患率 (10万対)
渋川	4	3.7
伊勢崎	17	6.9
安中	2	3.7
藤岡	6	9.3
富岡	3	4.6
吾妻	1	2.0
沼田	6	8.0
太田	11	5.0
桐生	12	7.9
館林	15	8.5
前橋市	21	6.4
高崎市	14	3.8
群馬県	112	5.9

県としては、罹患率5.9（暫定値）と、目標の7.0以下（R4）を達成した。保健所別の新登録結核患者数は、前橋市保健所21人、次いで伊勢崎保健所17人、館林保健所15人の順に多く、罹患率として藤岡保健所が最も高く9.3、次に館林保健所の8.5であった。

2 事業指標

(1) 【指標1】全結核患者に対するDOTS実施率

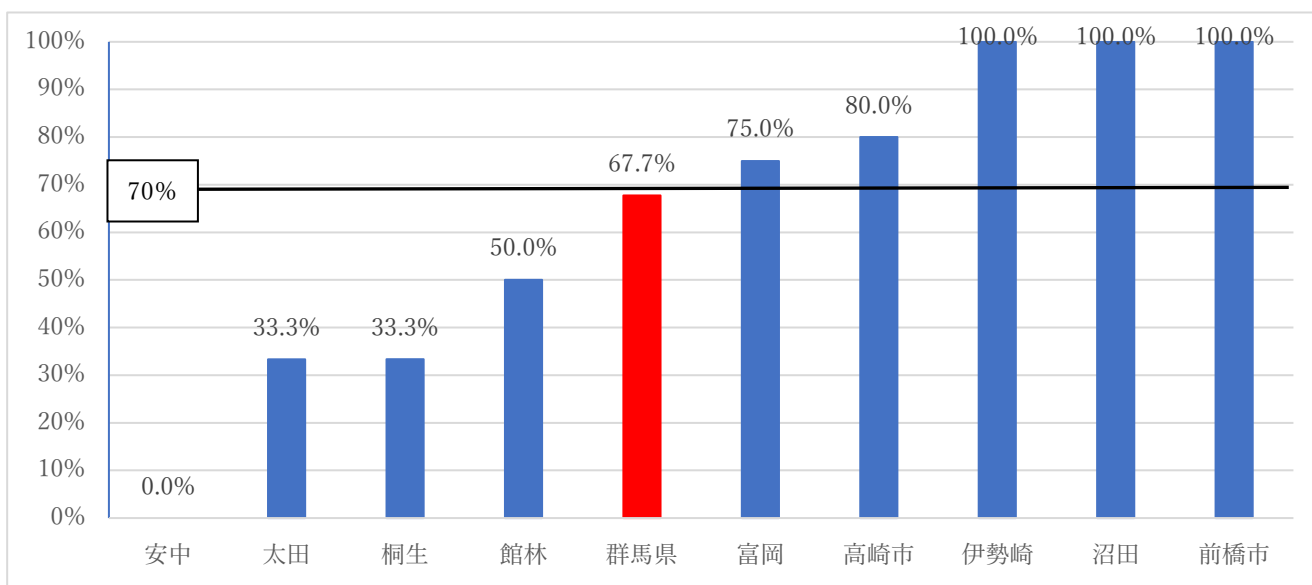
目標値：95%以上



指標1は、結核患者が確実に抗結核薬を服用することにより治療完遂を促し、ひいては結核のまん延防止、多剤耐性結核の発生予防を図るためのプロセスを評価する指標である。令和4年は全ての保健所で100%であった。今後も保健所を主体とした服薬支援を強化していく。

(2) 【指標2】前年登録喀痰塗抹陽性肺結核患者のうち治療成功率

目標：70%以上

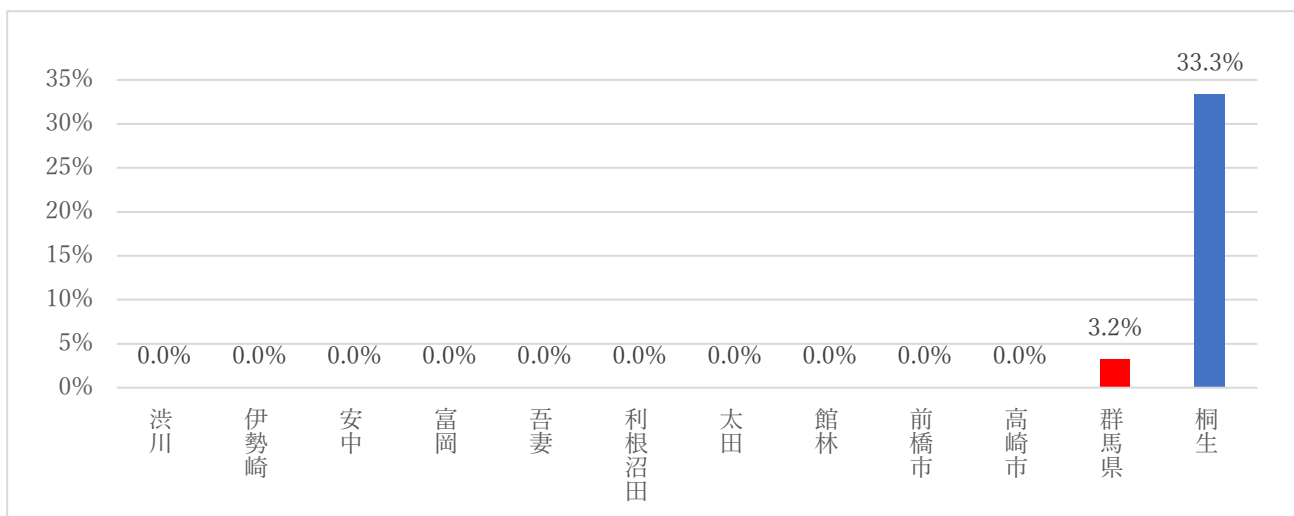


※渋川・藤岡・吾妻は対象なし

指標2は、喀痰塗抹陽性肺結核患者の治療成功率を示したものである。結核のまん延防止のためには感染性の肺結核患者を確実に治療することが重要である。5つの保健所が目標値の70%以上を達成している。

(治療成功：コホート分析において、治癒及び完了の評価を得たものの合計を治療成功とした。)

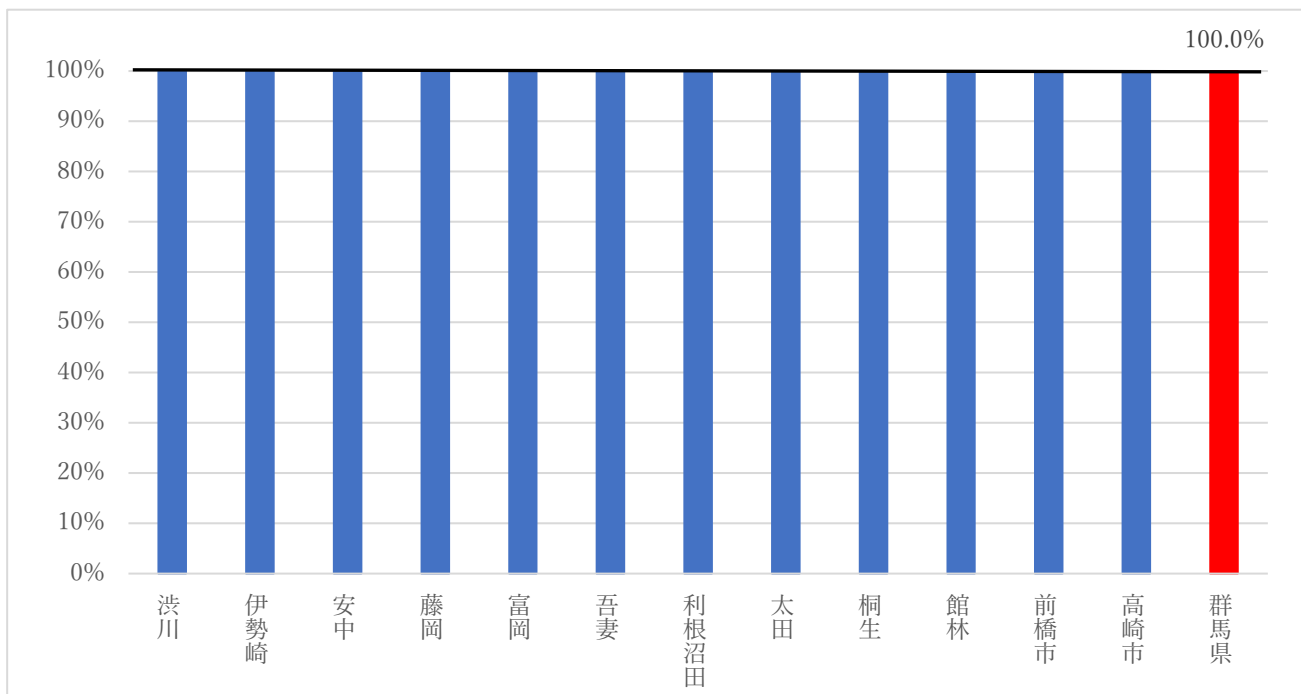
(3) 【指標3】 喀痰塗抹陽性肺結核初回治療の失敗・脱落率 目標：5%以下



※藤岡は対象なし

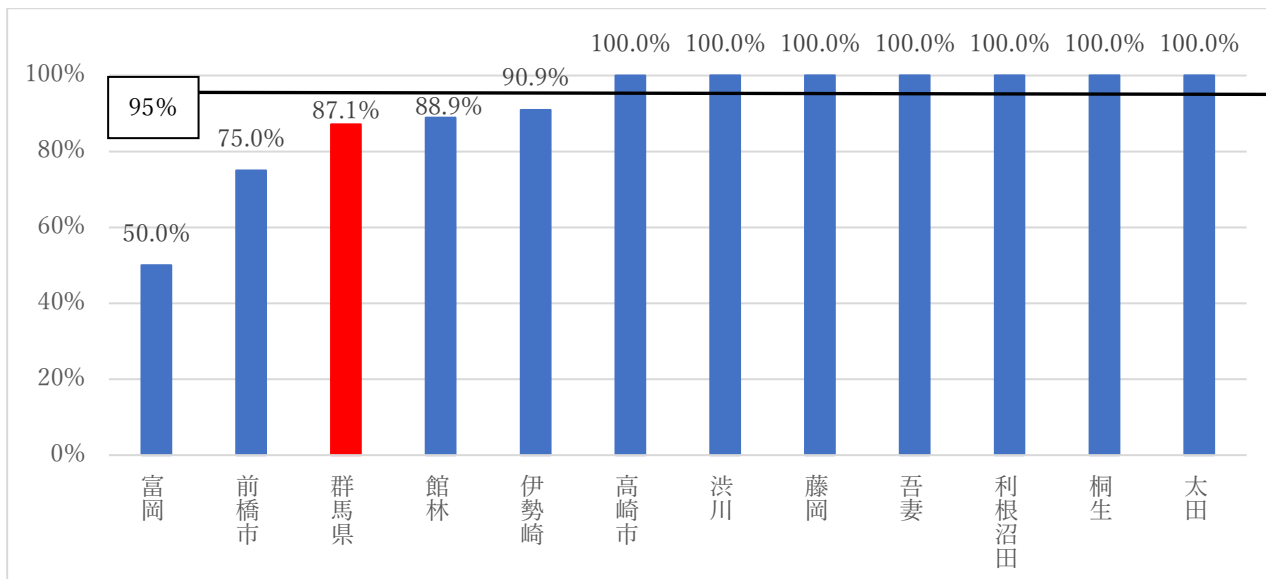
指標3は、喀痰塗抹陽性肺結核患者における治療成績が失敗又は脱落となった割合の指標である。桐生保健所において、脱落が1件あった。県平均は、目標値5%以下の3.2%であった。

(4) 【指標4】 新登録菌陽性肺結核患者のうち培養等検査結果把握率 目標：100%



指標4は、患者の結核菌培養結果を保健所が確認したか否かの指標である。令和4年における培養結果把握率は、全保健所において100%であった。

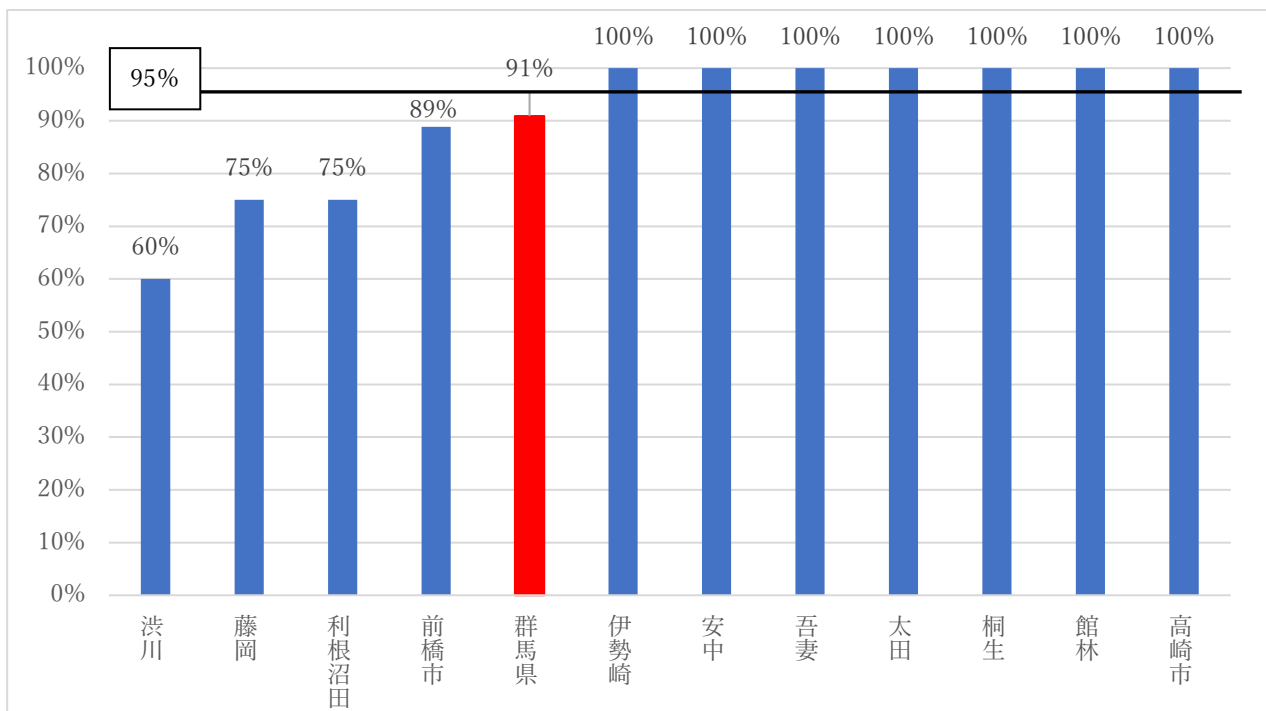
(5) 【指標5】 新登録菌陽性肺結核患者のうち登録時薬剤感受性結果把握率 目標：95%以上



※安中は対象なし

指標5は菌陽性肺結核患者の薬剤感受性検査結果の把握率を示している。県全体の平均は87.1%であり、目標95%に達していないため、薬剤感受性の把握を徹底していく必要がある。

(6) 【指標6】 前年登録潜在性結核感染症患者のうち治療完了率 目標：95%以上

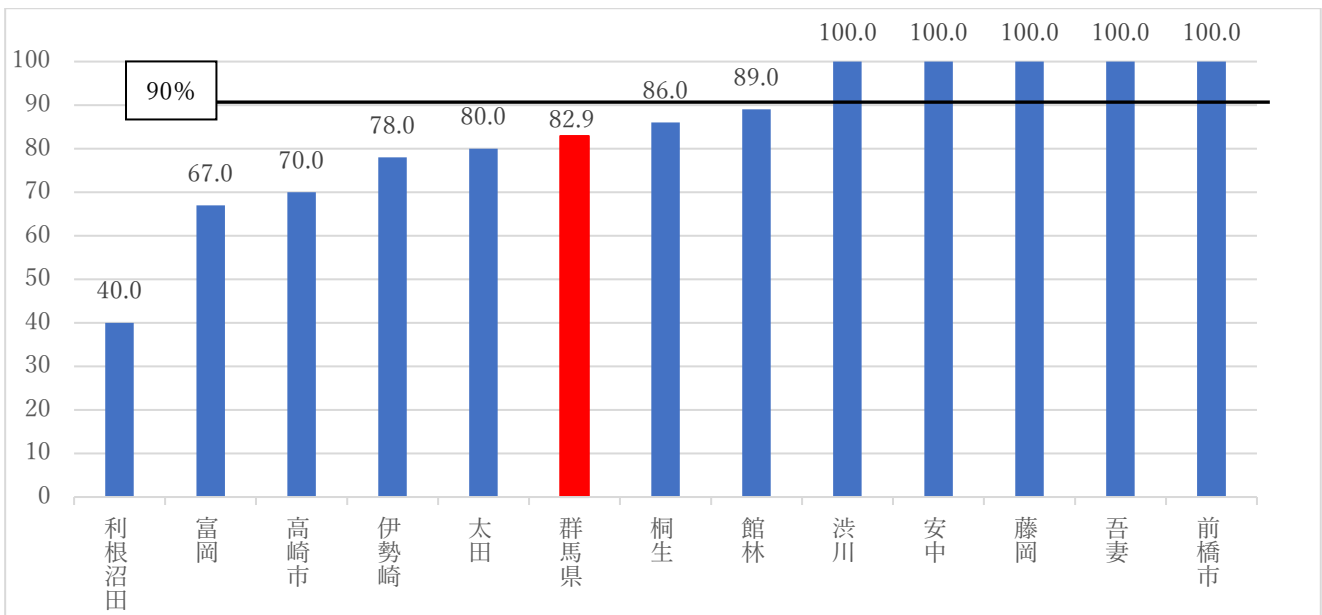


※富岡は対象患者なし

指標6は、無症状かつ感染性のない潜在性結核感染症患者の治療完了率である。結核の低まん延期において患者数を減少させるためには、潜在性結核感染症患者を確実に治療してることが重要である。

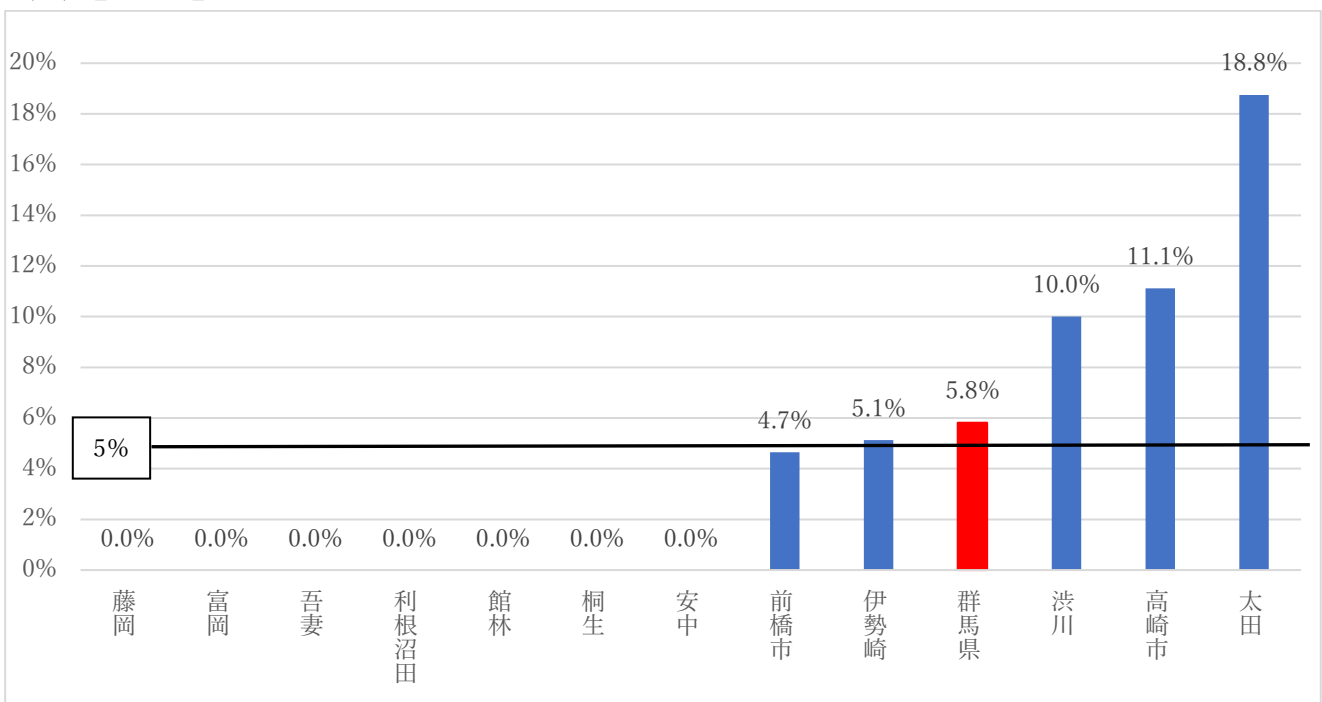
令和4年においては、目標値である95%以上を達成することはできなかった。

(7) 【指標7】 80歳未満の初回治療患者に対するPZAを含む標準治療の実施率 目標：90%



指標7は、確実な治療を行うため、80歳未満の患者に対してPZAを含む4剤治療が実施されているかを見たものである。目標値の90%以上を達成することはできなかった。

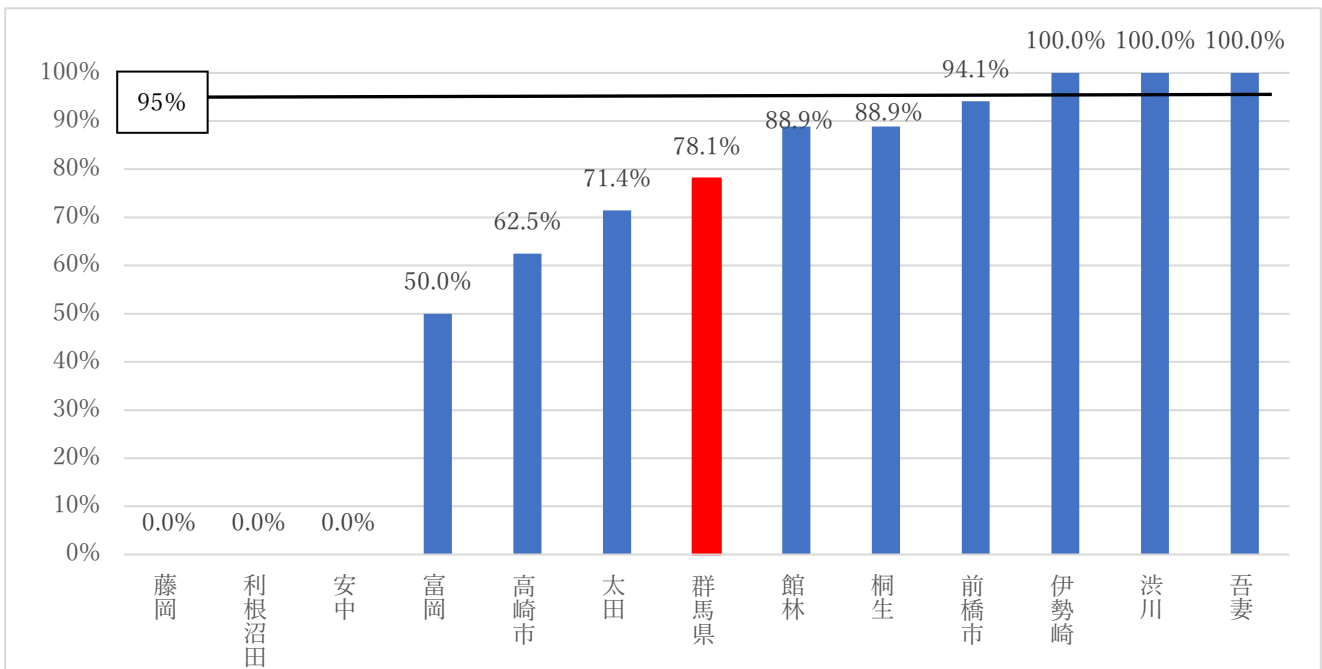
(8) 【指標8】 全結核患者の活動性不明率 目標：5%以下



指標8は、保健所が治療終了後の結核登録者の病状を胸部エックス線検査又は喀痰検査の実施等により確実に把握しているかを評価するための指標である。県平均は5.8%と目標値の5%以下を達成することができなかった。

(9) 【指標9】 菌陽性患者の分子疫学的検査の実施率

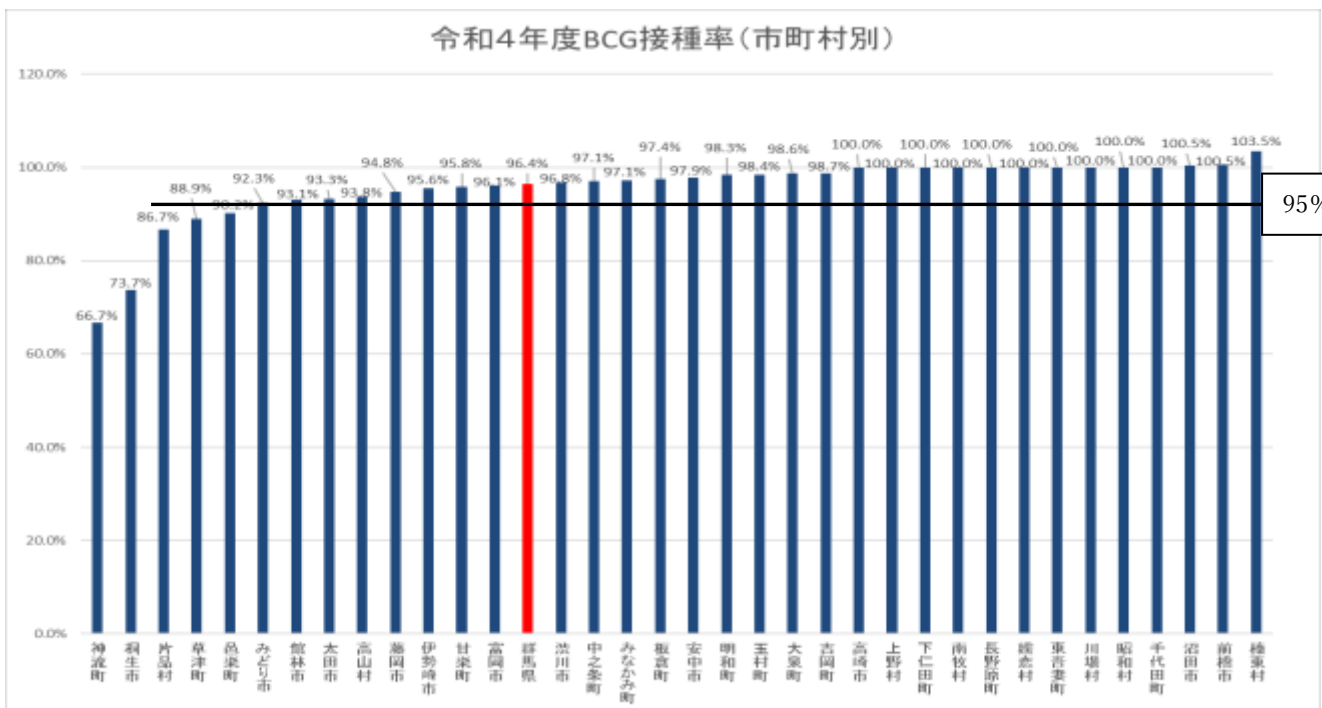
目標：95%



分子疫学的検査は、県の衛生環境研究所で結核菌の遺伝子解析を行い、実地疫学情報と組み合わせることにより、未知の感染源や感染経路を究明することを目的としている。本県では平成28年から実施している。新型コロナウイルス感染症の影響で、菌株の収集が減少しており、目標値の95%以上を達成することができなかった。

(10) 【指標10】 BCG接種率

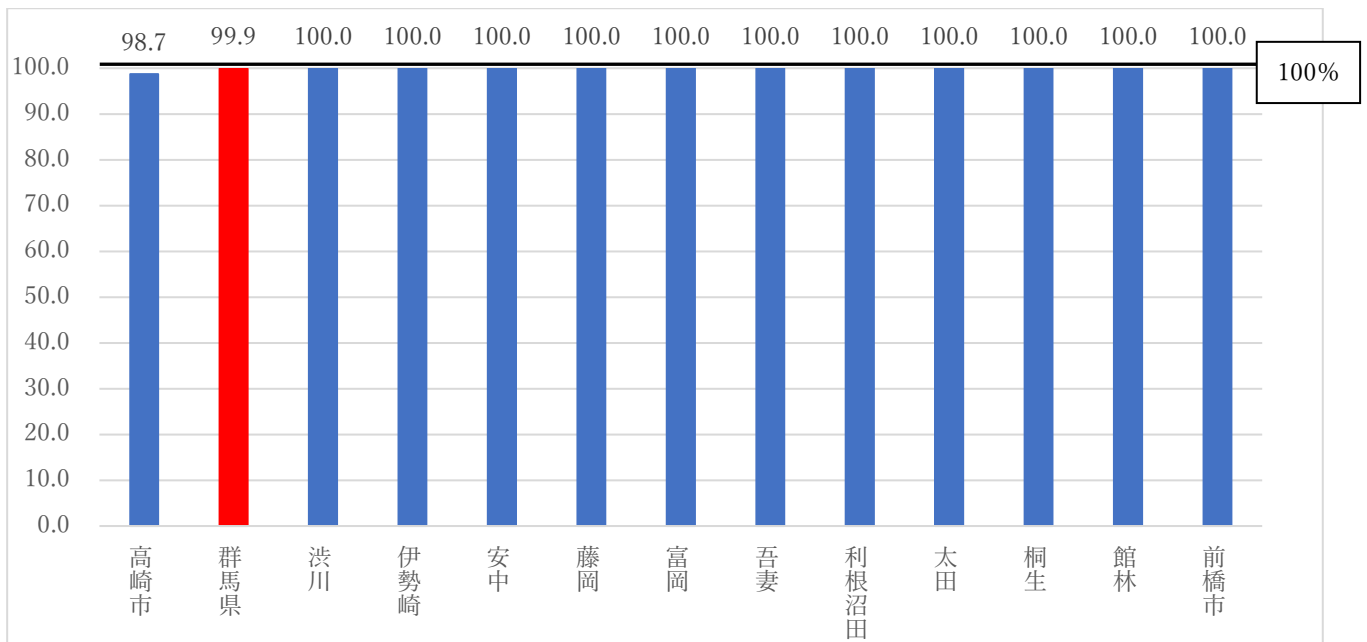
目標：95%以上



BCGは、乳児期に接種することにより、結核の発症を52~74%程度、重篤な髄膜炎や全身性の結核に関しては64~78%程度予防する効果があるとされている。県全体では、目標値を達成しているものの、大きく下回る市町村があることから、更なる取組が必要である。

(11) 【指標11】 接触者健康診断の受診率

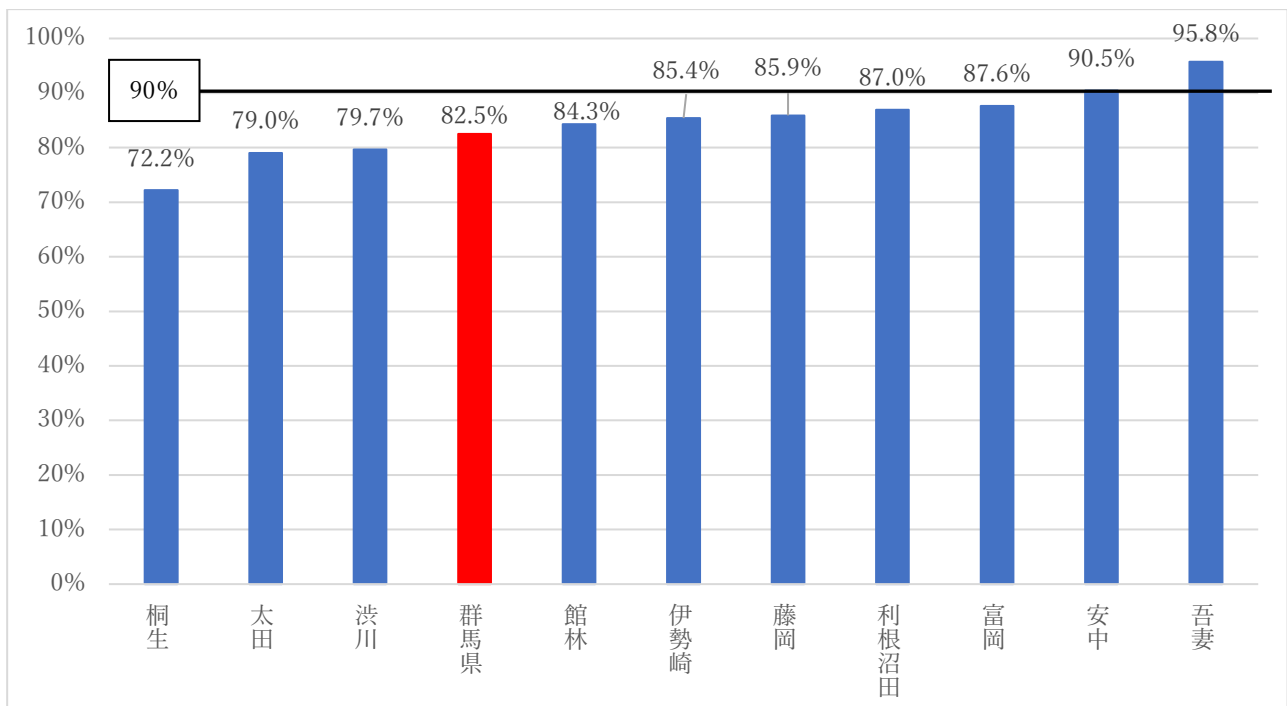
目標：100%



指標 11 は、結核のまん延を防止する上で最も基本的かつ有効な手段である接触者健康診断の実施を評価する指標であり、国は确实（100%）な実施を求めている。1 保健所で 100%実施とはならなかった。

(12) 【指標12】 結核健康診断実施月報の報告率（県保健所）

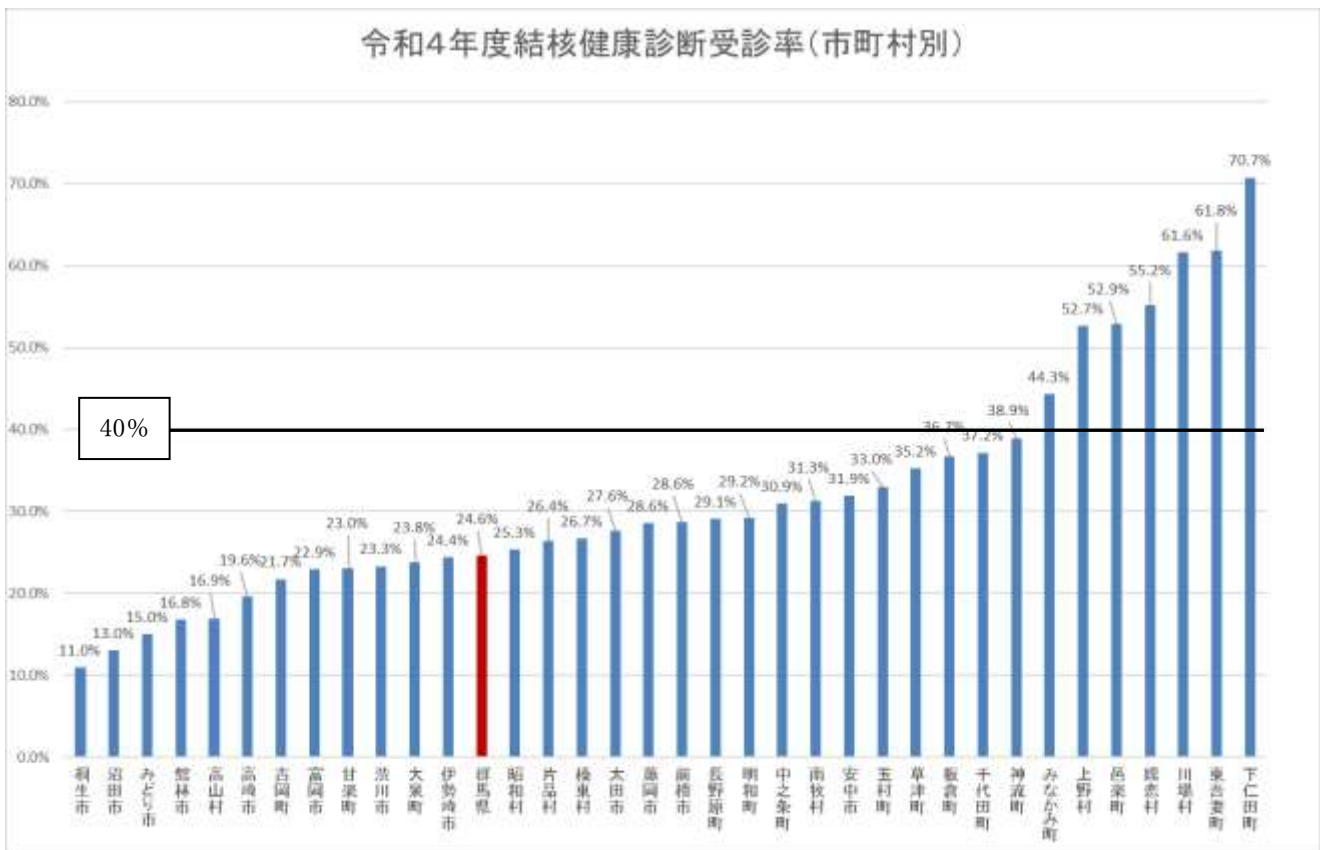
目標：90%



指標 12 は、令和 4 年度に医療機関や社会福祉施設等が行った結核健康診断の報告率を評価したものである。法定事項であることから、目標値を 90%としているが、目標に達することができなかった。各保健所では、例年、対象事業所等に指導しているが、今後も継続した指導を行っていく必要がある。

(13) 【指標13】市町村長が実施する定期健康診断の受診率

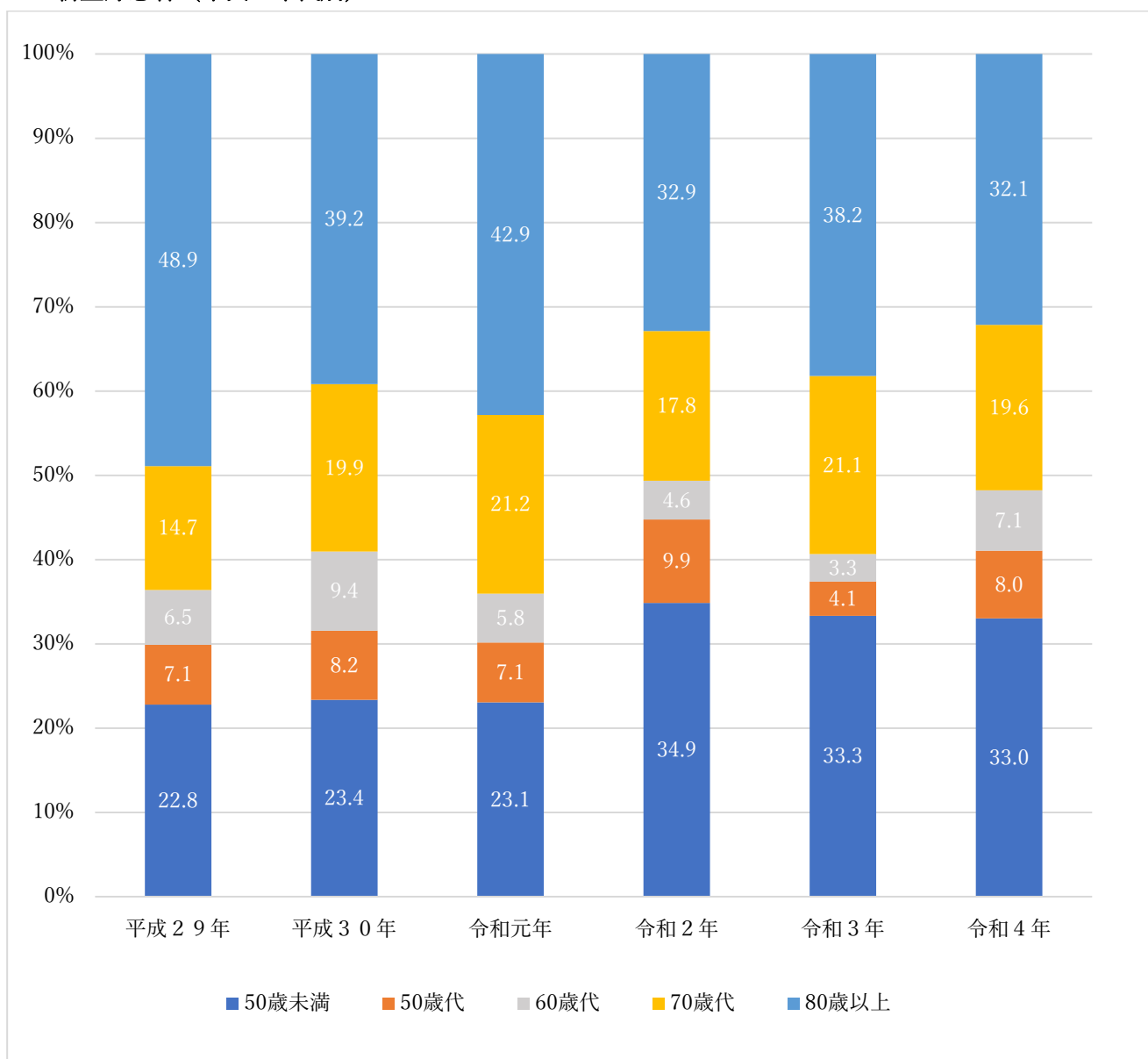
目標：40%



指標13は、結核の早期発見のための基本的な施策である定期健康診断の受診率を評価したものである。令和4年度においては、市町村が実施した定期結核健康診断の受診率は24.6%であり、前年とほぼ横ばいであった。目標値の40%にはほど遠いため、特に受診率が低い市を管轄する保健所は、受診率が向上するよう指導、支援していく必要がある。

3 高齢者の結核について

新登録患者（年次・年代別）

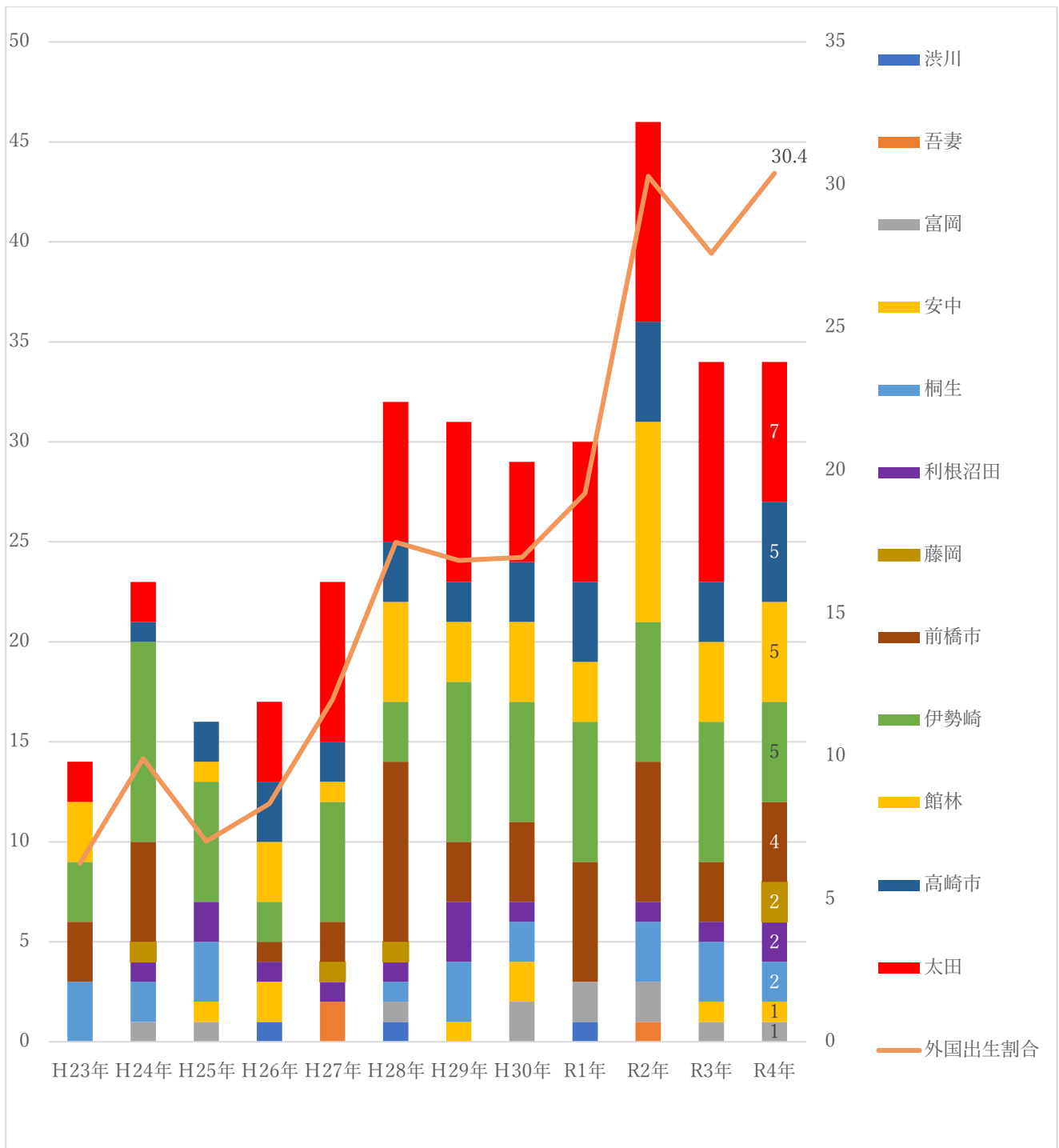


本県の結核は、患者数及び罹患率ともに年々減少しており、令和4年の新登録患者数は112人(暫定値)、罹患率は5.9(暫定値)と過去最低を更新している。結核がかつて国民病であった時代に感染した者が高齢化し、免疫力の低下等に伴って発病するケースが多くみられ、令和4年結核新規登録患者の約6割が60歳以上であった。

本県では、令和4年までに罹患率7.0を目指し、結核対策を進めてきたところ、令和4年の罹患率5.9と目標を達成することができた。罹患率を更に低下させるためには、高齢結核患者を効率的に早期発見できるよう定期健康診断の受診率向上及び有症状時の早期受診の勧奨などの対策を保健所を中心に市町村と連携・協力して一層強化していく必要がある。

4 外国出生者の結核について

外国出生（推定含）新登録患者数－保健所別年次推移及び新登録患者に占める外国人出生（推定含）割合



令和4年の外国出生新登録結核患者数は減少したものの、外国出生患者の占める割合は30.4%であり、前年27.6%から増加した。本県は、依然として全国の中でも上位であることから、コミュニケーションの問題が受診や治療継続の支障とならないよう、医療通訳派遣などの支援や多言語による啓発を充実させ、外国出生患者対策を今後も継続して実施していく。